

SAN-Ai

社会医療法人 三愛会 広報誌「さんあい」

Vol.16



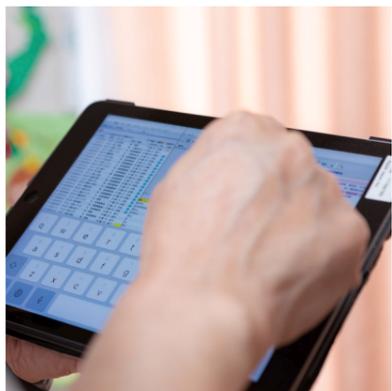
大分三愛メディカルセンターの2階から撮影



ひとに笑顔を ちいきに“愛”を
社会医療法人 三愛会



社会医療法人 三愛会 広報誌「SAN-Ai」Vol.16(2020年7月1日発行)
発行元/〒870-1151 大分市大字市1213番地 TEL.097-541-1311 社会医療法人 三愛会 大分三愛メディカルセンター 広報委員会
社会医療法人 三愛会/www.san-ai-group.org/ 三愛総合健診センター/www.kenkou-oita.com
◁[表紙の写真]大分三愛メディカルセンターの2階から撮影した写真を加工しました。



訪問診療をこの街の当たり前にしたい。

地域の高齢者の健康を見守る。

「患者さんには、できるだけ、家族のように接しているんです」。

病に苦しむ家族の姿を見続けた結果、今の自分がある。ただ無機質

「患者さんには、できるだけ、家族のように接しているんです」。

病に苦しむ家族の姿を見続けた結果、今の自分がある。ただ無機質

そのケースはさまざまであり、一概に評価できるものではない。患者の病態、生活環境などを全て視野に入れた上で、一人一人の生活を診て言葉かけられる。

医師・白坂千秋

「今は、タブレット端末で電子カルテを遠隔操作できるから、訪問診療もやりやすくなりました。昔はクリニックに戻ってから一人一人処方していたので、夜遅くまでかかってましたね」。

苦勞を語る白坂医師が訪問診療を開始したのは、2008年の秋。10年以上のベテランだ。診療所の院長としての職務をこなしつつ、毎週火曜から金曜の午後に、訪問時間を設けている。

子どもの頃はコンピューター技師になりたかった、という白坂医師。祖父が鼠経ヘルニアで、何度手術しても良くならずに苦しんでいた姿を見ていて、気づけば医師の道へと歩を進めていた。やってくる患者を診ていくのと同じ、訪問診療はさまざまな配慮が必要になる。それでも、訪問時に笑顔で迎えてくれる患者の姿を目の前にすると、普段の苦勞が報われていく気持ちになる。

超高齢社会のいま

大分県の統計によると、2019年10月時点での65歳以上の人口は、県全体で約36万9千人、32.55%に上った。大分市だけでみても、約12万8千人で26.89%。「高齢化」という言葉が叫ばれて久しいが、「超高齢社会」はすでに来ている。

主に高齢者の健康と日常を支える医療・介護業界でも、この現状に対応することが喫緊の課題となり続けている。一人暮らしの高齢者の不安や、高齢の方が高齢の配偶者を介護しなければならぬ、いわゆる「老々介護」など、問題は尽きない。

まず「起こらう」とは、「病院や診療所に行きたくても、身体が不自由で自力でいけない。連れて行ってくれる家族もいない」という状況だ。超高齢社会では、この悩みが圧倒的に増える。それを解決するのが「在宅医療」。つまりは「訪問診療」などにあたる。様々な事情により通院が出来ない人のもとへ、あらかじめ診療計画を立てて定期的に訪問し診療を行うことができる。また、介護施設などに医師が赴き、施設利用者をまとめて診療することも多い。地域の医療・介護機関、看護師やケアマネージャー、ソーシャルワーカー、保健師などと連携を取りつつ、地域の高齢者の健康を見守る。すでにやってきている超高

白坂千秋 しらさかちあき

<プロフィール>
たばるクリニック 院長
オレンジドクター 医学博士

昭和52年：九州大学医学部卒業
昭和52年：九州大学温泉治療学研究所 外科入局
昭和61年：山香町立病院 外科部長
平成元年：大分県立病院 外科副部長
平成5年：大分県立病院がんセンター 第2外科部長
平成12年：のつはる診療所 院長
令和元年：たばるクリニック 院長

に診察するのではなく、患者一人一人の生活そのものを見つめながら、患者とその家族に声をかける。

今回は、そんな白坂医師の訪問診療のワンシーンに密着した。

※定期的に訪問する「訪問診療」に対し、予定外に要請を受けて患者がいる場所へ向かうことは「往診」という。

超高齢社会では、この動きがいかに円滑にまわるかが重要になっている。

訪問診療の実際

たばるクリニックでは、院長の白坂千秋が訪問診療を実施している。白坂は、2000年に野津原診療所（現：のつはる診療所）に着任し院長を務め、昨年9月に野津原から田原へと活動拠点を移した。現在、たばるクリニックの院長と介護老人保健施設たばるの施設長を兼任している。

たばるクリニックの場合、日中は看護師、夜間は医師へ直接繋がる電話番号を伝えており、休日でも相談を受けられることができる。まさに24時間365日の体制だ。それは同時に、「常に気が抜けない」ともいえるが、近隣の訪問診療対応のクリニック（ハートクリニック、朋友クリニック、何松内科循環器科、ひろたクリニックなど）と連携し、情報の共有・不在時の対応・困難事例を協議することで、体制を整えている。

訪問診療以上に耳慣れない言葉だが、「居宅療養管理指導」という介護サービスもある。これは、診察ではなく、医師が自宅での健康管理やアドバイスを行うもの。ケアマネージャーにも情報提供を行うことで、よりよい在宅生活のために重要視されているものだ。

一言に「訪問して診る」といっても、

住みなれた場所で暮らす喜び。

いつでも繋がる安心感がある。

安部禮子(れいこ)さん(79歳)が脳梗塞を起こしたのは、2001年。左片麻痺となつてから、夫の文夫(ふみお)さん(84歳)が全ての介護を行う生活が始まった。お子さんのいない高齢夫婦にとって、介護する身・される身どちらにおいても不安が伴う。特に、毎日車椅子の妻を見守る文夫さんの心の不安は、日に日に大きなものとなつていく。

「自分も若いわけではない。持病の腰痛があるほか、狭心症の疑いで心臓カテーテルの手術も経験した。もし自分が動けなくなつたとしたら、誰が妻を看ってくれるのか。自分が最後まで

で妻を看ることができるとかの確信はない。もちろん、そうでなくても最後の不安というのは尽きることはない。そんな思いが大きくなり、あの頃は一人で思い詰めることも多かったですね」

そういった状況を心配してくれた周囲のすすめで、2019年3月、有料老人ホームさんに夫婦揃つて入所する。身の回りのことはヘルパーがこなしてくれ、デイサービスも週に2回利用する。同じ部屋なので、禮子さんのことは、変わらず文夫さんが温かく見守ることができている。「やっぱり安心感が違いました。2人きりの生活のなか、介護疲れと不安についても孤独感がつきまといたいけれど、



左前から安部禮子さん、安部文夫さん

ここなら安心して毎日が送れます。なにより、白坂先生が来てくれることが楽しみでもあるんですよ」

白坂医師による訪問診療は、2週間に1度の水曜日。「目が悪くなつた気がする」「手足がしびれている」「飛蚊症がある」「腰が痛い」。文夫さんが気兼ねなくあれこれと伝えると、白坂医師はタブレットに表示されたカルテ内容を見ながら答えていく。しゃがみ込んで文夫さんと禮子さんの目を見ながら、雑談でもするかのようにつつの訴えに応じる。冗談も飛び交う井戸端会議のような空間の中で、病院診察の勧めや介護サービスの紹介、薬の飲み方などが丁寧に指示されていく。

「先生がそう言うなら、そのようにしましょう」。

文夫さんも禮子さんも、笑顔で頷くと、10分ほどの診察は無事終わった。今回は、もつとリハビリをしたいという要望を伝えて、デイケアの施設を教えてもらった。今度の楽しみが一つ増えたようだ。

長い長い夫婦生活だからこそ、自分のこと以上に互いの健康が心配になつてしまう。その心の陰りを、施設職員や看護師、そして白坂医師の存在が拭ってくれる。

「今度は先生にこの話をしよう」。

白坂医師が去つたあとも、2人はしばらく夫婦の会話に花を咲かせていた。

ある日の訪問診療スケジュール



① 午後から始まる訪問診療
午前の通常診療をこなし、休憩を終えると、看護師と共に訪問診療へ出かける。



② 車で患者が待つ場所へ
自宅や施設へは、白坂医師自身が運転して向かう。野津原・田原・植田周辺の地理は、ほとんど頭に入っている。



③ 施設への訪問診療
「訪問」というと患者さんの自宅に伺うイメージだが、市内の介護施設からの診療依頼も多数ある。今回は老人ホームへ。



④ 訪問診療の機器もデジタル化
タブレット機器を使って、患者さんの情報を確認・管理。情報が集約されているので、医院にいなくても診療体制は万全。



⑤ それぞれの部屋をまわる
施設の場合は、患者さんの部屋をそれぞれ回って1人1人を訪ねる。雑談も交えつつ、和やかに診察は進む。



⑥ 自宅への訪問診療
患者さんの自宅に直接伺うことも多い。自宅での療養を希望する方が増えているなか、住み慣れた場所での生活を支えている。



⑦ 家族の安心も支える
今回は自宅でリハビリに奮闘する男性宅へ。介護する妻も、訪問診療を頼りにしている。(次頁参照)



看護師による看護、セラピストによるリハビリも提供。看護師単独でも施設を訪問し、看護を提供するので、施設の職員は安心して頼ることができる。また、理学療法士や言語聴覚士なども訪問できるため、自宅で本格的なリハビリを受けられる。(次頁参照)



自分らしい生き方を支える 看護とリハビリテーション。



医療と介護の橋渡し役である 訪問診療の現場に密着

看護師の活躍の場は病院だけに留まらない。病気やその後遺症、寝たきりなどによって通院が困難な方に対し、医師に代わり、定期的な訪問し、看護を提供するのが訪問看護師だ。緊急時には24時間365日体制で対応し、地域の医療機関や介護事業所とも連携し、利用者が希望する自宅や施設で、安心して暮らし続けられるようサポートしている。

「わざわざ訪問看護ステーションには、椎迫と田原の二カ所のサテライトを含めて、総勢18人の看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・事務員が在籍し、大分市内約120人ほどの利用者を支援している。訪問看護師は利用者の自宅や老人ホームを訪ね、かかりつけ医からの指示を受け、医師の目や耳となって患者を見守る。また、セラピストが同行し、本格的な訪問リハビリテーションを行うこともある。在宅医療においては、介護のみならず医療依存度の高い患者も増えている一方、核家族化や単身世帯の増加などにより、療養生活の環境は多様化が進む。だからこそ、一人一人の状態や希望に沿ったケアが追求される。そういった中で、医療と介護の橋渡しの存在として重要な役割を担う訪問看護師・セラピストの1日に密着した。

チームによる支援だからこそ 実現できる在宅医療がある

安東キノさんは、脳梗塞で緊急入院し手術、5カ月間の入院・寝たきり生活となった。脳梗塞・骨折など、入退院を繰り返したにもかかわらず、松岡看護師と三ノ丸作業療法士による看護・リハビリテーションメニューにより、いまでは庭の草むしりができるまでにまで回復した。歩行器に体重を預け、廊下で歩行訓練を行う安東さん。そして、「がんばりすぎず、マイペースで」と心をつぶやいているかのように手を優しく添えてサポートするスタッフ。

「自力で歩けることは生活の質を二気に高め、ご本人の尊厳を守ります。寝たきりにしない、させない。悪化・重症化予防として、入退院を繰り返さない。そのために私たちは、在宅医療チームで安東さんを支援しています」と松岡看護師は話す。そこには看護とリハビリ双方で支援しているからこそ、実現できる在宅診療があった。



オーダーメイドの 介護・リハビリプラン

進徹也さんは、5年ほど前に重篤な状態で病院に運ばれる。「主人の身体の異変に気づき、慌てて電話をしました。24時間365日体制なので、本当に助かりました」と妻の浩美さんは、その時の状況を思い出しながら語る。退院にあたり、在宅医療のプランについて、幾度となく会議が開かれた。また、徹也さんご本人と浩美さんの希望がヒアリングされ、その内容が丁寧にプランに反映されていった。そして、寝たきり状態から歩行までをめざす、三浦理学療法士の計画ができあがったのだ。薬のこと、リハビリメニューのことなど、白坂医師に矢継ぎ早に質問していく進也さん。その様子を見ながら「お父さん、もうちょっと、ゆっくり話せばいいの。白坂先生はどこにもいかなのよ」と、浩美さんの一言でその場が和む。ご夫婦の笑顔が、医師と看護師の活力の源になっているようだ。



訪問看護は介護する 家族のサポートにもなっている

「薬や食事のこと、身のまわりのこと、介護ってほんとうに大変ですね。でも、訪問看護を利用し始めて、川島さんに相談できるようになり、とても助かっています」。義父である中山壽郎さんを介護する康子さんは、川島看護師とノートやメールで細かい連携ができるようになり、とてもラクになったと話す。

「相性というか、やっぱり川島さんの人柄ですかね。義父も実の娘のように慕い、訪問看護の日を心待ちにしています。病院と違い、看護師とじっくり話せるのがいいですね」と康子さん。そばで聞いていた川島看護師は照れくさそうに笑った。

利用者やご家族の思いを最優先に考え、寄り添い、じっくりと支援していく訪問看護にも多様化の波は押しよせてきているが、結局、人を支えているのは人なんだと再認識させられた瞬間だった。





キャラクター
LINEスタンプ
発売中



アイアイ&ラヴリイ三平の
MEDICAL UPDATE

三愛会マスコットキャラクター・アイアイ&ラヴリイ三平が投げかける、医療・介護の疑問。「わかりやすさ」にこだわった健康教室としてぜひ、この機会に学んでください。
※本家「さんあい健康教室」は、大分三愛メディカルセンターにて2か月に1回開催中です。



Q 新型コロナウイルスの流行で、未だに何かと感染リスクには気を遣ってしまいます。訪問診療の場面でも、お互いに感染してしまわないか心配です。

A 病院や介護施設が感染対策をとっていると同様に、訪問診療・介護を行うほとんどの機関が、万全の感染対策を行っています。



Q 病院・医院に行きづらい人が医師や看護師に来てもらえるのは、とても助かります。ただ、どういった手続きをすれば訪問診療をしてもらえるのか、わかりません。

A もちろん、誰の家にでも行けるわけではありません。通院が面倒だからといって呼ぶことはできず、いくつかの条件があります。



<わさだ訪問看護ステーションの場合をご紹介します。>

・事前の確認電話の徹底

訪問前には電話で患者さまの状況を確認。発熱の有無や、なにか体調に変化はないかを問い合わせた上で訪問を実施します。



・体調チェック

患者さまには、体調管理の記入票を配布し、ご自身で管理しつつ、看護師も毎日の状況が把握できるようにしています。これにより、異変がみられた際には早期に対策を講じることができます。



・マスクの徹底

通常のサージカルマスクはもちろん、その下にはN95マスクという高機能のマスクを装着。飛沫(咳やくしゃみなど)でお互いに感染しないよう万全を期しています。



N95マスク(緑色)

・事務所での注意

待機している事務所でも、小さなことですが、机の配置を変え、対面の機会を減らしています。こちらも飛沫感染の対策です。



そのほかの感染対策

- ・体温チェックなど職員の体調管理
- ・休憩時の対面機会の削減
- ・換気の徹底
- ・患者様への啓発 など
- ・拭き上げの徹底

現在、大分県内の数多くの病院・医院・介護施設が、感染対策に万全を期した上で運営しています。医療・介護のサービスについては、情報を正しく得て、是非ご安心にご利用ください。

①基本的には、「自宅療養中」である「通院困難な方」が対象です。

直接医院や事業所に問い合わせることもできますが、まずは、かかりつけ医の先生や、担当してくれるケアマネージャーに相談してみましょう。訪問看護の場合も同様です。病状の確認を経て、費用などの説明を踏まえ、診療計画に基づいての定期訪問診療が提案されます。

◆「通院が困難な方」の具体的な例

病気によって歩行が困難だったり、寝たきりなどで、通院が難しい
人工呼吸器や胃ろう(食事が摂れない人のため、直接、胃に栄養を入れるため手術で作られたお腹の「口」)などをつけて、移動が難しい
自宅での療養・お看取りを希望する

※ご家族が付き添って通院できる場合は、これらに当てはまりません。



②相談後の流れ

医師や看護師・相談員などが自宅へ訪問して、病状確認や必要な診療の内容、かかる費用などについて説明・確認を行った上で計画を立てます。



③訪問の開始

計画に基づいて、定期的な訪問が始まります。また、病状急変などの緊急時には、24時間365日対応の体制を整えている機関も増えています。

訪問診療・訪問看護でできること

検査や治療はもちろん、自宅にて使用している医療機器の管理、ご家族からのご相談に応じてケアについて指導してもらうこともできます。訪問看護では、病状の観察や療養上のお世話などはもちろん、認知症ケア・介護予防などのほか、在宅でのリハビリテーションを行えるようにサービスを整えている事業所もあります。

わさだ訪問看護ステーションでも、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が在籍しています。



[社会医療法人 三愛会]

大分三愛メディカルセンター

三愛総合健診センター

所在地	〒870-1151 大分県大分市大字市1213番地
T E L	097-541-1311
F A X	097-541-5218
病床数	190床
診療科	脳卒中センター、消化器病・内視鏡センター、運動器センター、救急外傷センター（ER）、人工透析センター、画像診断センター、リハビリテーションセンター、救急科・外科・消化器外科・心臓血管外科・呼吸器外科・乳腺外科・大腸肛門外科・脳神経外科・整形外科・泌尿器科（人工透析）・形成外科・内科・消化器内科・呼吸器内科・循環器内科・糖尿病内分泌内科・リウマチ科・神経内科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科
専門外来受付	8:15～12:00/13:30～17:00 ※診療開始時間は診療科によって異なります。
休診日	日曜日・祝日・土曜日午後 ※但し、救急・時間外診療は24時間体制です。
認定施設	二次救急指定病院、大分DMAT指定病院、DPC対象病院、日本医療機能評価機構認定病院

介護保険相談センター さんあい

（大分三愛メディカルセンター内）

T E L	097-542-7409
サービス	居宅介護支援、介護予防居宅介護支援

わさだ訪問看護ステーション

（大分三愛メディカルセンター内）

T E L	097-541-7007
サービス	訪問看護、介護予防訪問看護

のつはる診療所

所在地	〒870-1203 大分市大字野津原906番地の1
T E L	097-588-1311
診療科目	外科・脳神経外科・内科・整形外科・リハビリテーション科
病床数	19床
サービス	通所リハビリテーション（デイケア）、介護保険相談センター

三愛呼吸器クリニック

所在地	〒870-1143 大分市田尻419-1
T E L	097-541-2588
診療科目	呼吸器内科・内科
サービス	呼吸リハビリテーション
H P アドレス	kokyu-oita.com

たばるクリニック

所在地	〒870-1154 大分市大字田原字深田936番地1の1
T E L	097-541-2345
診療科目	外科・内科・消化器外科・リハビリテーション科
サービス	訪問看護ステーション

介護老人保健施設 たばる

（たばるクリニック併設）

T E L	097-542-4139
サービス	入所サービス、短期入所療養介護（ショートステイ）、通所リハビリテーション（デイケア）

グループホームたばる

（たばるクリニック併設）

T E L	097-541-5298
サービス	入所サービス

介護老人保健施設 わさだケアセンター

所在地	〒870-1151 大分市大字市宇大坪11番地の2
T E L	097-541-6655
サービス	入所サービス、短期入所療養介護（ショートステイ）、通所リハビリテーション（デイケア）
H P アドレス	wasada-care.com

有料老人ホーム さんさん

所在地	〒870-1151 大分市大字市566番地の3
T E L	097-529-5580
サービス	住宅型有料老人ホーム

さんあいヘルパーステーション

（有料老人ホームさんさん内）

T E L	097-529-5582
サービス	訪問介護、介護予防訪問介護

[社会福祉法人 三愛会]

特別養護老人ホーム そうだ藤の森

所在地	〒870-1123 大分市大字寒田202番地
T E L	097-567-8822
サービス	特別養護老人ホーム、短期入所生活介護（ショートステイ）、デイサービスセンター、介護保険相談センター

天領ガーデン・ふれあい館

所在地	〒870-1143 大分市大字田尻高尾783-1
T E L	097-578-7122
サービス	訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、看護多機能ホームふじっこ、元気デイきらら、デイサービスひなたや、天領ふれあいサポート

特別養護老人ホーム 天領ガーデン

（天領ガーデン・ふれあい館内）

T E L	097-574-7500
サービス	地域密着型特別養護老人ホーム、ショートステイ



社会医療法人 三愛会 理事長/三島康典

一人一人の思いを誇りに、さらに50年、100年先へ。

2020年も折り返し後半に入っています。本来、今年は東京オリンピック・パラリンピックを始めとして、数多くの心躍る催事が予定されていました。新型コロナウイルスの影響は、当初の予想からは比べ物にならない程に、世界的に大きなものとなってしまいました。当法人でも、大分三愛メデイカルセンターをはじめとして、感染症対策や熱発された方への対応など、大きな影響を受けました。

気候が良くなった5月頃より、ウイルス蔓延は徐々に落ち着きを見せ、皆様方におかれましても、新しい生活様式を取り入れた日常の生活に戻るような動きをされているかと思いますが、健康面・経済面などで不安はまだまだ拭えません。自粛による影響か、持病が悪化してきている患者さんをよく目にします。地域の健康を支える使命として、当法人内各事業所へご相談いただければと思います。

大分三愛メデイカルセンターは感染症の専門病院ではありませんが、「発熱難民」を出さないとの想いのもと、発熱された方の診察や、新型コロナウイルス感染症患者さんの入院受け入れなど、出来る限りの対応を行ってきました。それに伴い、スタッフには相当の精神的・身体的な負担がかかったかと思いますが、それでも使命感をもち、弱音を吐くことなく共に未知のウイルスに立ち向かってくれたこ

とには、心から敬意を表します。また、県内・外でも医療従事者を応援していただく取り組みを多くの場面で見聞きました。私達にもしっかりとそのお声は届いています。患者さまから温かなお言葉をかけていただいたり、小さな子どもたちからも励ましのメッセージを受け取っています。現在、大分県内でなんとか蔓延を落ち着かせているこの状況は、みなさまのお陰でもあります。しかしながら、このウイルスとの闘いはしばらくの間続くことが予想されますので、対策をさらに徹底していきたいと思えます。

そんな中、当法人は本年9月に設立50周年を迎えます。我々がこれまで続けられているのも、この50年間の地域の皆さまのご愛顧、そして全職員の努力の賜物であります。50周年に際し、様々な周年事業を企画立案してりましたが、当然ながら縮小して展開せざるを得ない状況です。今現在できる限りのことを遂行した上で、我々としては、これからも地域の皆さまの健やかな生活を支えていくための日々の業務に邁進して参りたいと考えております。

3代目理事長として、三愛会へ関わっていただいた一人一人の想いを誇りに思いつつ、これからさらに50年、100年間愛され続ける存在として、ご一緒に歩を進めていければ幸いです。

（原稿執筆時：2020年6月22日）

